



宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

UU ユー・ユウ・ノウ now



CONTENTS

- 1 OB. INTERVIEW
- 4 特集 ホームcomingデー
- 6 地域貢献REPORT
- 8 Welcome to 授業
- 9 Welcome to 研究室&ゼミ
- 10 研究keyword / 私の学生時代
- 12 INFORMATION / 宇大検定
- 14 UU News
- 15 学生アンケート 宇大生は今!
- 16 サークル紹介 / 編集後記

OB. INTERVIEW - 山崎 晴介 -

トヨタ自動車株式会社 パートナーロボット部ロボット製品プロジェクト推進室

新しいカタチを創る

新しいカタチを創る

トヨタで「人間と共生できるロボット」の研究開発を続ける山崎晴介さん。入社後初めて開発に携わった『バイオリンを弾くロボット』は、上海万博に出展され、その技術水準が高く評価されている。現在は、安心して自由に移動を楽しめるパーソナル移動支援ロボット『Winglet』の実用化に向け奮闘中だ。「ロボットに対する考え方、とらえ方はさまざま。新しいカタチを創っていきたい」という。

(取材/工学部応用化学科4年・畑山)

「大きな仕事」に携わって
いる実感

トヨタ本社がある愛知県豊田市の北部、緩やかな丘陵地にトヨタのロボット研究開発の中核であるパートナーロボット部の研究施設がある。自然に恵まれた伸び伸びとした環境の中で最先端の研究が進められている。「毎日、ビクニック気分です通っています」と山崎さんは笑う。

今年で入社5年目。「トヨタ

はやることが大きい」と実感する。「自分が携わったロボットが上海万博に出展されているなんて、大学時代は考えられなかった。テレビや新聞を見た実家の親から『バイオリンを演奏する(ロボット見たよ)』と言われると、あぁ、大きな仕事をしているんだなと実感します」。山崎さんが研究しているパートナーロボットとは、「人間をアシストする『人間と共生できる』ロボット」である。入社後半年の研修期間を経て、ほぼ1年サイクルで違ったタイプのロボット開発に携わってきた。パ

イオリン演奏ロボットは、「家

庭内での家事支援」「介護・医療支援」を念頭に、「道具を使

う」ロボットとして開発された

もので、人間の手や腕の繊細な

動きを実現している。山崎さん

は、ロボットのボディー部分の

設計を担当した。「最初に携わ

ったロボットで、印象に残って

いる仕事です。自分の中でもし

っかりやれたという気がしてい

ます」。

現在は、「安心して自由に移

動を楽しめる社会的実現」に貢

献することを目的とする、立ち

乗り型のパーソナル移動支援ロ

ボット『Winglet(ウイングレ

ット)』の開発に携わる。

大きな会社では、歯車の一つ

にしかねれないと、よく言われ

る。自身も、そう思うことがあ

った。いまは、そんな迷いを吹

き飛ばしてしまうほどのダイナ

ミックな仕事環境に圧倒されて

いる。「歯車の一つにさえなれ

ていない。やるべき仕事は非常

に多いし、歯車一つ動かすこと

が、どれだけ大きなことかとい

うことを実感している」。

『ASIMO』を創った先輩

との出会い

「綺麗な大学だな」。宇都宮大

学の第一印象だ。受験のため初

めて訪ねた峰キャンパス。「フ

ランス式庭園の景色がとても綺

麗だった。宇大はいろいろな学

部があって、いろいろな人に出

会えるだろうと思った」。

大学では主にメカニクス設計

を学んだ。ロボットの研究室に

所属したが、最初から特にロボ

ットに強いこだわりがあったわ

けではない。「なぜ僕が仕事に

ロボットを選び、その開発をい

ままで続けてきているのか、と

考えてみると、大学の先輩で

(世界初の本格的二足歩行ロボ

ット)『ASIMO』を開発した広

瀬真人さんの講演を聞いたこと

が、きっかけの一つになったと

思います」。

大学院生時代、キャンパスで

開かれた講演会だった。「冗談

半分に広瀬さんが、『冷蔵庫か

らビールを持ってきてくれる口



宇大生の頃、大学祭にて(中央が山崎さん)



プロフィール

山崎 晴介【やまざき・せいすけ】

1982年、静岡県生まれ。00年、静岡県立掛川西高等学校卒。04年、宇都宮大学工学部機械システム工学科卒。06年、工学研究科博士前期課程情報制御システム科学専攻修了。06年、トヨタ自動車株式会社入社。現在、パートナーロボット部ロボット製品プロジェクト推進室所属。

「ロボットがつくりたかった」とおっしゃいました。「ああ、自分もそうだな」と思った。確かにロボットが身の回りのことをしているやつてくれたら、自分ももっと自分のやりたいことに専念できるし、人間にしかできない行動にもっと注力できるんじゃないかなって思いました」。

専門分野以外の勉強が、人間的強みにつながる

サークルはバドミントン同好会に所属。キャンプやバーベキュー、日光方面にサークルの仲間たちとよく遊びに行ったことを覚えている。飲み会では「宴会部長」として場を盛り立てた。「年の違う仲間と話ができたことが良かった。酒を飲みながらくだらないことを話していただけかもしれないけれど、いま思えば、自然と人との接し方、コミュニケーションのとおり方を身につけていたのかもしれない。社会人になって、いい経験になっていたんだなと感じます」。

「トヨタで働いてみて感じたことは、誰とでもうまくコミュニケーションをとれる雰囲気があることです。一つの目標に対し自信をもって自分の意見を発言するし、人の意見も素直に受け入れる。チームとして物事を進めるのが上手だと感じます。私自身、上司に自分の考えを伝

えますし、上司も意見に対し耳を傾けてくれます」。

「自分への反省もあります。学生時代は浅くとも広く勉強したほうが良い。専門分野以外の勉強を気軽に始めることを勧めたい。会社に入ってから人と話しているといろんなことを知っているということは強いなって感じます。もちろん大学生にしかできないことをするのも大事です。時間を使って日本一周するとか」。

後ろを向かない

「学生のときは、いまの自分の年齢、入社5年目で30歳くらいの方は、バリバリ仕事ができているという姿をイメージしていました。何でもやって、会社を動かしているような。実際、自分がその年齢になってみると正直、まだまだという感じです。大学時代、『自分は何をしたんだろう』ということをよく考えました。いまでも答えは出ていません。バシッと答えを出せる人がうらやましい。でも、いま思っていることが一つの答えじゃないのかなと思います。僕は結構あつからんとしているんで、とりあえずやってみたいと思うことに手を出して、失敗したら失敗したで、次につながるばいばいかな。後ろを向かない。何事も前向きに考えて生き

るようにはしています」。

エンジニアとして「メカのプロになりたい」という。「この人に頼まなければ開発設計は無理だと言われるようになりたい。ロボットで言えば、人から要求されたものではなく、自分で本当にほしいと思うものをつくりたい。自分がほしいと思えるものでなければ、他の人を納得させるまでのものはできない。みんながほしいものと自分のほしいものがイコールならば、非常にうれしいですね」。

「いま、僕がほしいものですか？ 部屋をきれいにしてくれて片付けたものを忘れないように覚えていてくれるロボットかな」。一人暮らしらしい発想だ。『ASIMO』の生みの親、広瀬氏のロボット開発の出发点も、「冷蔵庫からビールを持ってきてもらえたら」という身近な想いだった。

「ロボットの研究開発に携わり、ロボットに対していろんな考え方、とらえ方があるんだな」ということを実感する。決まったカタチというものがない。どこからロボットではないのか、わからなくないところがある。それが故におもしろい。ロボットの新しいカタチを創っていききたいと思います」。

(文・ヒオス編集部 / 撮影・木原悠策)



【バイオリン演奏ロボット】
両手・両足を協調させてバイオリンを演奏。人と同じように左手でピブラートをかけることができる。
(写真提供：トヨタ自動車株式会社)



【Winglet】
体重移動のみで前後進、旋回操作を行うことができる。狭い場所や混雑した空間でも安心かつ快適に使用することができる次世代のモビリティツール。実用化に向け、安全・安心性などの検証が続けられている。



工学部の後輩である畑山さんと(後ろは「搭乗歩行型ロボット i-foot」)

ホームカミングデー

宇都宮大学の卒業生が恩師や旧友と旧交をあたため、また、宇大の歴史と伝統、現在と未来像について、教職員や在学生と語り、絆を深めることを目的とした第1回「ホームカミングデー」が4月29日に、宇大キャンパスで開催されました。

「ようこそ、お帰りなさい」 進村武男 学長

本日は、卒業生・修了生のオンラインキャンパスに相当する「第1回 宇都宮大学ホームカミングデー」にご参加いただき、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

と将来について、本学の教職員及び在学生と語り、交流と絆を深めていただければ幸いです。

宇都宮大学が、昭和24年に新制国立大学として発足してから創立60周年を迎え、この間、5万2千95名の学部卒業生・大学院修了生が本学を巣立っていかれました。60年という節目を機に、学部をまたいだ大学あげての大規模な同窓会である「第1回のホームカミングデー」を開催させていただきます。本学の現状を紹介させていただきます。本学のさらなる発展に向けて、今後、皆様方との協力関係を築く「礎」にさせていただきます。

先日、「宇都宮大学40年史」を読ませていただきました。本学は、開学当初から「地域に根ざした大学を目指していた」とがひしひしと伝わってまいりました。本学が、地域に根ざし、地域から信頼される大学を目指している原点が、60年前の発足時にあると改めて感じ入った次第でございます。

「ホームカミングデー」は、同窓生の皆様を「お帰りなさい」と温かく迎え入れるイベントでございます。皆様も、恩師や旧友と再会され、親交を温めていただき、昔を懐かしみながら、宇都宮大学の歴史と伝統、現在

あげた教育と研究の成果を社会に発信し、成果の還元に努めています。この努力が実り、平成18年に初めて調査された全国・国公立立大学「地域貢献度」

国際学部：国際学部の「過去・現在・未来」についての懇話や懇談会。1期卒業生の女性は「懐かしい」という思いと、初めての催しで、どんなものなのかという興味を持って参加した。同期生が、いま、どんなふうにご覧しているのか興味があります」と話した。



教育学部：音楽教育専攻の学生による演奏会。「多くのOBたちとふれあうことができた。今回は、これまでの演奏会とは違った人たち、幅広い層の方たちに音楽を聴いていただける機会となった」と音楽専攻の3年生。



工学部：ものづくり教育の現状報告の後、各系に分かれて交流会。建設系の交流会では3期卒業生が「機会あるごとに同級生に会ったりして、いま、3期生の名簿を作っている。工学部全体だけではなく土木の同窓会を設立して宇大の名前をPRしていけたらと考えている」と話した。



記念式典：宇都宮大学混声合唱団による大学歌合唱で始まり、進村学長が挨拶を述べ、渡邊直樹理事（企画・広報担当）が「宇都宮大学の60年の歩みと現状」を報告した。式典後は、各学部単位の催しが行われ、学部長、同窓会長の挨拶や交流の場が持たれた。



農学部：功労者表彰などの後、学科ごとに分かれ交流会。青森から参加した昭和39年卒業生は「ホームカミングデーの趣旨は大いに賛同している。学部単位での同窓会と違って全学部合同の同窓会で人数が多くなった。今後、発展していくことを見守っていきたい。大学は、国立大学法人となり厳しい環境にあるが、がんばってほしい」と話した。



MOMENTS MUSICAUX (特別演奏会)：式典後、教育学部音楽教育講座教員たちによる演奏会が開かれた。



において、全国総合第1位の栄誉に輝きました。以後、今日まで、毎年トップレベル（国立の総合大学としては第1位）に位置づけられており、今後も全国のフロントランナーとして頑張っていきたいと思っています。

本学は、何よりも「教育」を重視し、人間性豊かな教養教育と高度な専門職業人の育成に努め、創造的教育実践のために教員の独創的な研究を推進していくこと、いくつかの特定分野については日本一、世界水準の研究を推進していくこと、そのために教育重視の研究大学院を指して努力していく覚悟であり、国からの運営費交付金も削減されていく中で、さらなる外部資金の導入に向けた積極体制の構築が必要です。そのためにも、自ら創り出した教育と研究の成果を基に、地域貢献・社会貢献に強い大学、広く世界に新たな「知」を発信する

大学、小さくともキラリと光る大学を目指して頑張っていく決意であります。

今年3月の学位記授与式のときに、卒業生・修了生に次のことをお話ししました。「いろいろな問題に遭遇し、相談したいことがあれば、いつでも、母校である宇都宮大学の門を叩いてほしいこと。宇都宮大学は、今まで以上に、卒業生との繋がりを強化したいと考えていること。大学は一時期の学習機関だけではなく、生涯にわたる学習機関であること」を申し上げました。

宇都宮大学は、同窓生の皆様方を本学の構成員として、広くとらえております。いつでもお気軽に母校にお寄りください。

最後になりましたが、皆様方のご健勝を祈念いたし、また、母校へのご指導とご協力をお願いして、私のご挨拶といたします。ありがとうございました。

(抜粋)



再会：会場であちこちで懐かしい友人との再会を喜び同窓生の笑顔が広がった。



受付風景：北は北海道、南は熊本県まで800人近い参加申し込みがあった。



講堂：思い出いっぱいの講堂で記念撮影。



ギターの弾き語り：自営業の傍らギターの弾き語りて街角に立つストリートミュージシャン。農学部OBで学生時代は、「オーケストラ、合唱団、軽音楽バンドで音楽を楽しんでいた」とのこと。



記念写真展：同窓生や教職員OB・OG提供の懐かしい写真を展示。



宇大オリジナルグッズ：生協等で販売された酒や焼酎、乳製品など附属農場生産品やキャンバスグッズも好評だった。



フランス式庭園：サツキが鮮やかなフランス式庭園を旧友と散策。



学食：附属農場生産品を使用した「オリジナルメニュー」が大好評だった。



旧交を温める：懐かしい友人との語り。

宇都宮大学 地域貢献

REPORT

子どもの健やかな成長を支える

本学は、「地域に学び、地域に返す。地域と大学の支え合い」という考えのもと、社会との連携活動を推進しています。



「宇大のお姉さん」と一緒

地球環境の尊さを自ら感じて欲しい

子どもが参加の植樹体験学習

NPOとちぎ生涯学習研究会

「お兄さんお姉さんと一緒に」
「宇大のお兄さんお姉さんと一緒に楽しく植樹をし、環境の大切さや足尾の歴史・文化を学びましょう」

宇都宮大学の学生たちのサークルNPOとちぎ生涯学習研究会は7年前から、日光市足尾地区で植樹活動を実施してきたが今年初めて、小学生に参加を呼びかけ植樹体験学習を企画した。「次代を担う子どもたちに言葉で伝えるよりも、植樹体験を通して地球環境の尊さを自ら感じて欲しいと考えた」という。

子どもが動けば親も行動しやすい

生涯学習研究会は、教育と環境保護を通して社会貢献活動をすることを目的に、宇大の学生やOBたちで結成された。現在学生メンバーは約20人。共働き家庭のためのアフタースクール寺子屋の運営と植樹が活動の大きな柱だ。

植樹活動には、毎年、50〜60人の大学生が参加している。また、「人類が再び同じ過ちを繰り返さないために、50年後の地球（荒れ果てた大地）を親に来てください」と題し、足尾の山々に植樹をしながら散策する野生動物観察ツアーも実施してきた。今回初めて小学生に参加を呼



「宇大のお兄さん」に手を引かれ植樹会場へ

びかけた理由は、「幅広い年齢層に環境意識を持ってもらいたかった」から。メンバーの松本隆平さん（農学部4年）は「環境保護活動を続けてきて、大学生だけではなく地域の人たちにも環境意識を広めたいと思うようになりました。まず子どもが動けば親も行動しやすいのではないかと考えました」と話す。同じく風間裕照さん（教育研究科2年）は「自然の中には学習要素がたくさんあります。いろいろな世代に参加してもらい、僕たちのテーマである『環境』をしっかり伝えていきたい。」

小学校を通して参加者を募る

こともサークルとして初めての試みだった。

「苗木が大きくなるのが楽しみ」

植樹体験学習には、小学生たちのほかに生涯学習研究会のメンバー以外の宇大生たちも参加し、総勢37人で宇大キャンパスをバスで出発した。足尾までの道中、車内では足尾が辿つてきた歴史や日光の文化などを研究会のスタッフが



白い花を咲かせるアセビの苗木を植樹

紙芝居を使ったクイズを面白おかしく出題。植樹会場到着後はシカなどの野生動物を探しながら山道を散策した。小学生たちも大学生のお兄さん、お姉さんに見守られながら歩いた。

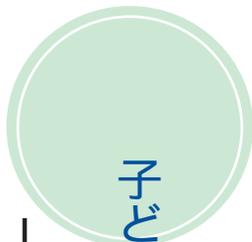
植樹は、栃木県造園建設業協会主催の「水と緑の少年隊フォラムin足尾」に参加する形で行われ、宇大関係者以外の小、中学生も参加した。シカの食害に遭わない常緑樹のアセビの苗木を栃木県造園建設業協会のメンバーの指導を受けながら一本、松木村跡の大地に植えた。

小学4年の岩崎司くん、鈴木雅大くんは二人とも植樹は初めての体験。「苗木が大きくなるのが楽しみ」と話した。

自然環境に興味を持つきっかけに

松本さんは「子どものころから植樹を体験することで、少しでも環境に興味を持ってもらい、将来、環境保護を担う大人に成長してもらえれば」と話す。

風間さんは「植樹を初めて経験した子どもたちは、まだ環境保護の意味がよくわからなかったかもしれないが、『とても楽しかった』と言ってくれましたから、子どもたちに何らかの印象を残したと思います。この企画が自然環境に興味を持つきっかけになってくれればと思います。継続して実施していくことで親子の参加者も増えていくと思います」と話した。



子どもたちに「食」と「命」の 大切さを伝えたい

「お米と果物とミルクのふしぎ体験教室」

宇都宮大学附属農場

「豊かな学び」プロジェクト

「田んぼのどろっとした感触が、何とも気持ちいい」「簡単そうに見えたけど、サッカーより疲れる」

宇都宮大学附属農場の水田に、親子の歓声が広がる。今年も5月から附属農場の地域開放事業「お米と果物とミルクのふしぎ体験教室」が始まった。

宇都宮大学は、子どもたちの健やかな成長を支援するために「豊かな学び 子ども体験支援プロジェクト」に取り組んでいる。各学部がそれぞれ教員のノウハウや施設を利用して、子どもを対象にした体験講座・教室などを開催している。

「お米と果物とミルクのふしぎ体験教室」も「豊かな学び」プロジェクトの一環として、小学生とその保護者を対象に開催されている。毎年、定員を超える応募がある人気企画である。

「お米と果物」と「ミルク」の



親子で田植えを体験

学び感じるこの大切さ

5月末の土曜日。附属農場の教室に、参加する親子が集まった。「豊かな学び」プロジェクトの代表で「ミルク」コースの担当者である長尾慶和教授が「みなさんがふだん食べているものが、どのようにして作られているか」ということを知ってもらい

2つのコースに分かれ、年間を通してそれぞれ「田植えやお米の収穫、ブドウ・ナシ狩り体験」、「牛の餌やり、乳搾り、人工授精体験」などに挑戦する。



乳搾り体験

たい。自分で植えた稲の苗が秋までにどのように大きくなっていくか、よく観察してください。そして、みなさんは、動物や植物の命をもらって生きているというのを感じていただきたい。いろいろなことを学んで、いろいろなことを感じてもらいたい」とあいさつした。

「食や命というものを自分たちと結びつける環境を提供し、食や命のことを考えるきっかけづくりをしてあげることが、この企画の大きな目的」と長尾教授は話す。

農家の人の苦労がわかった

「一粒のお米（もみ）から、どのくらいのお米がとれるのかな」「農家の人はお米がとれるまでどんな仕事をやるの」

「お米と果物」コース担当の高橋行継准教授が子どもたちに質問しながら米づくりの基本的な知識を伝えていく。

教室を出て、いよいよ田んぼでの田植えが始まった。親子が一列に交互に並び、高橋准教授と学生スタッフの指導で苗を植えていく。

ブリゴ美佳さん、丈リツカルドくん親子は「子どもにはご飯を残してはいけないと言っただけでなく、どうしてご飯が大切かを学んで欲しいと思った。自分で植えたお米を収穫できるのが楽しみ（美佳さん）、田んぼに入るのは初めてだけど、土はぬるぬるしていて気持ち良かった。田植えをしてみても農家の人の手間がわかった（丈リツカルドくん）」と話した。

2人の子ともと参加した亀井康広さんは「遊びながら農作物の仕組みがわかり、子どもたちにも勉強になる」と歓迎する。

青山真弓さん、百花さん親子は「日ごろ利用する機会の少ない大学施設に入ることができたり、大学の先生の話聞けたりしてとてもためになる」（真弓さん）、「学校で田植えのことを習ったばかりだったので、とても参考になった」（百花さん）」と話した。

長尾教授は、「大学の事業であるからには、子どもたちの健やかな成長にどれだけプラスになっているか」という視点で、今後、教室の効果を客観的に検証していきたいと考えている」と話す。

大学が身近な存在に

「豊かな学び」プロジェクトに

は、学生がスタッフとして参加して、実習をサポートしている。こうした学生たちが「先生たち主催の教室では伝え切れなかった部分を子どもたちに伝えたい」との思いから、大学の支援を受けてプロジェクトを立ち上げたケースもある。「牧場宿泊体験ツアー」はそのひとつだ。附属農場内の宿泊施設に親子で宿泊しながら、夜眠っている牛の様子を観察したり、みんなで羊の毛刈りをしたり、雑木林でのカブトムシ採りなど、学生が企画したプログラムが実施された。

長尾教授は「子どもたちに教えることを通じて、学生自身に自分たちが学んでいる分野の社会的意義を実感してもらおうのも開放教室の重要な目的のひとつです。こうした取り組みを通じて、地域の人たちにとって、宇都宮大学がより身近な存在になってくれることを願っています」と話している。



学生プロジェクト「牧場宿泊体験ツアー」のチーズ作り

Welcome to 授業

国際関係論 【国際学部】



教員から

大学における「学問のすすめ」

この「国際関係論」は、国際学部に入学者1年生全員が初めて学ぶ学部の授業です。大学における学問とは何か、国際学部でどのように学べばよいのか、といった疑問や不安を抱えて教室にやってくる学生たちに対応するために、まずは「大学において学ぶ」とは何かについて考えてもらうことから始めています。

最初の授業では、教員による講義は学習の「きっかけ」を提供するものであって、参考文献などを探しながら、自分で計画を立てて自由に課題を追究するという「自発的な学習」こそが、学問の醍醐味であると話しています。「先生がこう言ったから、、、」「教科書に書いてあったから、、、」ではなく、それらの情報を総合し、自分でも調べながら、「私は を根拠にこう考える」と言えるように、世界に目を向けつつ自分で考える力を鍛えてほしいのです。授業の方法も一方通行にならないように、学生が毎回記入するコメントシートに答えたり、参考文献を紹介しながら、問題意識を高めてもらうように工夫しています。

「戦争と平和」を軸に世界を学ぶ

授業で学ぶテーマは、要約すれば「戦争と平和」です。人類の歴史は戦争の歴史と言われるほど、多くの殺りくや破壊、収奪を繰り返してきました。ただ同時に、それらの悲惨な状況乗り越えようとする人々の働きが積み上げられてきたことも事実です。「国際関係論」という学問自体、第一次世界大戦という

大戦争の反省として誕生しました。再び戦争を起こさないために、国家と国家の間にどのように秩序をつくっていくかについて考える学問が必要である、と人びとは考えたのです。

戦争と平和をめぐるこうした営みは、国際的な政治や制度として現れているだけでなく、文学をはじめ音楽や絵画、人びとの生活様式や服装など、文化的な事象のなかにもみられます。学部にある国際社会学科、国際文化学科に共通する科目として、

社会的な現象とともに、岡本太郎やピカソ、エメ・セゼール、ソルジェニーツィン、ワーグナー、モーパッサン、魯迅など、文化的な現象との関わりも取りあげながら、宇都宮大学国際学部でしか学ぶことのできない独自の「国際関係論」にしたいと考えています。

国際学部講師 清水奈名子



学生から

私は、高校時代に世界史の授業を受けていたのですが、そのとき習った歴史を国際関係的な面から見つめ直すという点で、この授業を大変面白く感じています。受験用に単に年号や用語を覚えるだけでは見えてこなかった、国際体制や国際機構の仕組みなどを改めて発見することが多くあります。各国の関係やその歴史を学ぶこの授業は、これから広く世界のことを学ぶ上で、広い視野を持つためのきっかけになる大切な授業だと思います。

国際学部国際社会学科1年 棚内柚佳里

この授業は、毎回学生が書いたコメントシートの回答で始まります。先生は様々な面に触れながら、学生が書いた疑問に答えてくれます。それによって、学問の視野がさらに広がります。また、私は留学生なので、この授業を通して日本人の世界を見る角度や世界状況に対する意見も知ることができます。さらに、自分の国がどのように見られるのかもだんだんわかってきました。

国際学部国際文化学科1年 叶 金栄



Welcome to 研究室 & ゼミ

学生から

今までと違う！新鮮！

総合人間形成課程というのは、自分たちがイメージしていた教育学部、あるいは一般の学科とは違います。なぜここに入学しようとしたか、実際のところは試験の出来といった現実もあるかもしれません。それでも以前の環境教育コースや地域社会コースに憧れて決めたという人もいますし、高校時代に何になるかがいまひとつ決まらずに、専門領域を2年次で決めてよいというシステムに興味をひかれた人もいますし……いろいろです。学際的

課程の特徴として挙げられるのは、「学際的」ということです。課程の英語名はLiberal Arts Bachelor of Education Programですが、この「リベラルアーツ」という言葉は新鮮でした。前期入試の小論文にこの言葉が出てきた時にはびっくりしました（教員注：現在の前期入試は小論文ではなく、教科での試験です）。実際6つの領域があって、それらの科目をわりと自由に受講できるとなると、目移りして迷います。

学生も様々

他の学科や専攻だったらこのような人には会わないだろうというくらい、自分とは大きく違う思考様式や行動様式の人もいます。1学年60名です。で、「全体性と個性性」がうまく同居できているのかなあとと思います。皆でまとまることと、自分で好きに動けること……そのようなメリハリはこの人数ならではの？学科のような小さい組織であっても顔も名前も知らない人がいるという話を他所で聞くと、うちの課程、けっこう仲がいいのかも。



1年次の授業中に、異なる領域の教養書を選択して読みます。



総合人間形成課程 【教育学部】

自分で見つけ、自分で決める

様々な中から見つける楽しさがあります。好みの授業についても、その人その人で感じ方が違い、先生方の特徴もさることながら、私たち一人ひとりの考え方や感じ方が違うことを実感します。1年生のときにいろいろな先生のオフィスアワーを訪問する課題が出ましたが、自分で「この先生！」という相性を見つけるのは、大変であっても大事なことなのかもしれません。就職も教員が主ではないので、多様なものを目指することができますよ。

総合人間形成課程2年
大嶋 悠也、大和田敦子、栗田 大基
澁谷 侑子、高橋 里沙、多賀 遥



自律的学習軌跡は、電子ポートフォリオとして記録に残します。

教員から

教育学部というと学校の先生……と思われるかもしれませんが、人を教えるにはまず自らが柔軟で多様に学べる存在でないといけません。学校でなくても、生徒でなくても、「人を教える」「自らが育つ」ということは世の中の至るところで求められます。平成21年度から始まった教育学部総合人間形成課程ではそのような学びを支えたいと思っています。単に目新しいということではなく、教育学部の特徴を活かした本質的な学び方なのです。

「学際的」ということが学生の話にも出ていましたが、高校で「文系」「理系」という区分けをして、「受験に必要ない」として切り捨て、大学に入っても「高校で学ばなかったから（専門でないから）」と学びを敬遠、忌避することは残念なことです。未知のものだからこそその興味深さ！総合人間形成課程では様々な学問分野を組み合わせた学びができます。

「学際的」ということが学生の話にも出ていましたが、高校で「文系」「理系」という区分けをして、「受験に必要ない」として切り捨て、大学に入っても「高校で学ばなかったから（専門でないから）」と学びを敬遠、忌避することは残念なことです。未知のものだからこそその興味深さ！総合人間形成課程では様々な学問分野を組み合わせた学びができます。

教員陣も多様でありながら、結構まとまっています（飲み会の集まりもよい!）。「小さな総合大学」と言っても過言ではありません。自分で作っていこう、自分から関係を持つという自律的、積極的な方々が入学して、この課程を盛り上げてくれるのを待っています。

教育学部准教授 川原 誠司

研究 Keyword

未利用生物資源を活かす

「捨てる」から「活用する」へ

宇都宮大学農学部教授 岩淵 和則

ふん尿や残飯は大切な資源

日本全体で一年間に発生する家畜排せつ物量は約9千万トンで、食品廃棄物(約2千万トン)や間伐材・林地残材(約4百万トン)と比べても排出量が非常に多いことが分かり、利用可能な生物資源全体の中でも25%を占めているほどです。

畜産業は私達に安全で美味しい乳肉などの食材を提供する重要な役割を担っていますが、一戸あたりの家畜頭数が百頭以上というケースもめずらしくは無く、ふん尿の量も多く排出されるようになりまし。ざっと見積もって百頭の牛は一日に約3トンのふん尿を排せつするので、当然ですが一週間で21トンにもなります。これを単に放つておいたら大変なことになるのですが、一方ではこれほどたくさん資源があるので有効利用しない手はありません。

農林業においては古くから人や家畜のふん尿、枯れ葉や落ち葉を集めて自然界に常在する微生物を利用して分解・腐熟・安定化させ、肥料や土壌の物理性

の改良材として利用するなど、単に廃棄物としてではなく作物の栄養源として大切に利用してきています。しかしながら現代は、前述のように多量に発生する家畜排せつ物や残飯を自然にまかせて土に返すというゆっくりとした反応速度では対応しきれないため、微生物の能力を最大限に発揮させ、迅速な分解・安定化を図ると共に悪臭も除去



写真1 食品残飯(左)とそれを原料にした堆肥

され、さらには乾燥されてユーザーが利用し易い堆肥(有機肥料)へと変換することが必要となっています(写真1)。何でも簡単に済ませてしまいがちな現代では、薬品を振り掛けて分解させたり、臭いを消したりしたくなるかも知れませんが、それはもはや堆肥とは言えません。生態系に負荷を掛けないよう、あくまでも自然界で起きている現象を基本的に技術を創り上げていきます。

堆肥化の主役は微生物

堆肥化とは、家畜ふん尿や食品残飯のように豊富な栄養を含んでいる原料を、自然界に常在する微生物によって利用(分解)してもらうことであり、その分解作用を受けた産物を堆肥と呼んでいます。堆肥を作る主体は微生物なので、それらが一番働き易い環境を見いだすことにより、有機物の迅速な分解を達成することができます。

堆肥化に関する主要な微生物は人間と同様酸素を利用する呼吸をしています。同時に有機物が分解し、反応熱が生じ、適正に酸素が供給されれば半日で

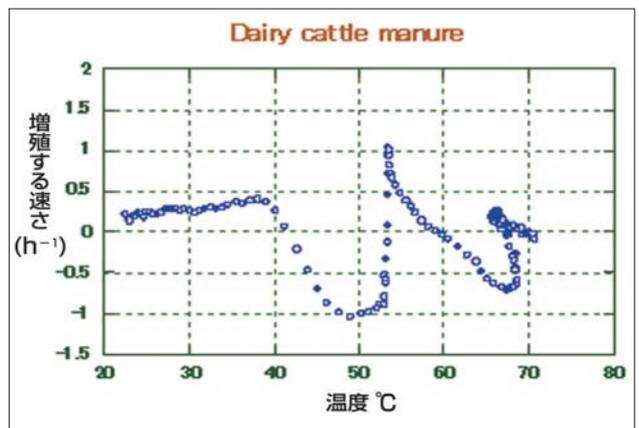


図1 堆肥温度によって微生物の増殖スピードが変化する様子

約70度まで温度が上がります。熱いお風呂の温度は約43度ですので生物が生みだすに十分な温度です。この温度上昇の様子から、いくつかのグループからなる微生物群が役割分担していることが分かっています。

堆肥化反応の高速化

図1は、役割分担の様子を微生物が増殖する速さ(比増殖速度)で表したものです。縦軸の比増殖速度が正の値、すなわち微生物が増えている温度域が大きく二つに分かれており、一つは常温(約20度)から40度までの温度域と、もう一つは約54度を中心とした非常に狭い温度域



PROFILE

北海道大学農学部、大学院農学研究科農業工学専攻修士課程修了。山形大学助手、助教授、Guelph大学客員教授、宇都宮大学助教授を経て2006年より現職。生物系未利用資源の堆肥化、エネルギー資源化などの教育・研究に従事。博士(農学)。

農学部農業環境工学科教授 岩淵 和則



写真2 炭化装置で家畜ふんや残飯から燃料用炭を製造

です。常温から温度上昇する場合は前者の微生物群が家畜排せつ物や残飯を分解し、やがて50度ほどの温度になると後者の微生物群にバトンタッチし、54度付近でそれらは急激に増殖して反応熱をさらに生成し70度付近まで温度を押し上げることが分かります。

前述した微生物が一番働きやすい環境を探るため、増殖スピードの高低で判断した場合54度あたりの温度が一番良い環境です。事実、この温度は家畜ふんの分解度や酵素活性も非常に高いことも分かっています。堆肥温度は54度よりも低くても、高過ぎてても、分解効率は悪くなることばかり、この知見を活かし、大きな堆肥化プラントを一定の温度になるよう制御する簡便



写真3 残飯から製造された炭。発熱量はコークスと同等

な技術も検討中であり、さらなる高速反応の実現に向けて努力しています。

ふん尿や残飯の燃料化

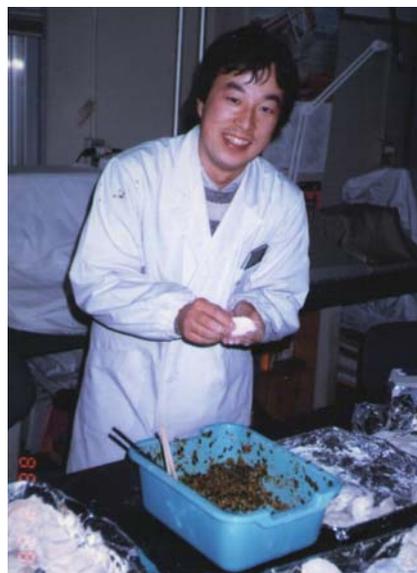
私の研究室ではふん尿や残飯を炭化して燃料用エネルギーとして活用することも研究しています。この研究で一番重要で困難な課題は、低エネルギーで炭化製造を可能にする技術の確立です。研究室では、これを解決する新技術（特許登録済み）によって水分を多量に含んだ材料でも簡単に乾燥し、炭化するシステムを開発中です。この方法は、必ずしも十分に活用されているとは言えない状況にある家畜ふんや残飯などをすべてエネルギー資源に変換できます。これらの技術によって、「捨てる」から「活用する」社会の構築に大きく貢献できると考えています。

私の学生時代

青春の出会い。研究と合唱。そして.....

実家が兼業農家で、小さいころから田植えを手伝っており、土の香というものが「のどかである」、今風に言えば「癒される」というか、そんな思いもあって大学は自然と農学部を選びました。格好良く言えば、「食」や「農」を支えたいという漠然とした思いもありました。研究テーマは、今と同じで「家畜の排せつ物をエネルギーに変える」という内容でした。同じテーマで研究を続けられているという意味では、幸せ者かもしれません。

男声合唱団の部活動以外は、学生生活のほとんどが下宿と研究室の往復でした。第三者から見れば、「何が楽しいの」という生活でしたが、研究していることがすごく楽し



研究室で餃子を作る学生時代の岩淵教授

かったし、それが私にとっての娯楽でもあったのです。研究室には中国の留学生がたくさんいて、彼らから水餃子の作り方を教わりました。研究室で酒を飲むときは必ず自分たちで餃子を作りました。

男声合唱団の活動は4年間続けました。夏休みに道内を演奏旅行するのですが、一番の思い出は、ソリス

トとして『赤とんぼ』を歌おうとしたときにスポットライトを浴びた瞬間、頭が真っ白になってしまったことです。「口から心臓が飛び出しそう」とはこういうことを言うのでしょうか。それほど緊張しました。

部活の仲間とススキノで飲んで寮歌『都ぞ弥生』を歌いながら札幌の街を歩き、5番まで歌い終わるころに北海道大学のキャンパスにたどり着きます。合唱団のつながりは今でも強いです。10年くらい前まではOB合唱団のメンバーとして歌っていました。実は、大学2年のとき、サークル活動を通して別の大学の合唱団にいた妻と知り合いました。

大学院修了後、一般企業への就職が決まっていたのですが、教授の紹介で大学教員の道を歩むことになりました。

自分への反省も含めてですが、学生時代は貪欲さが大切だと思います。知識をどんどん吸収し学んでいこうという気持ちはとても大切です。それがなければ新しいことはできない。世界に先駆けて何かをやってやる、そういう志は必要だと思います。

【岩淵 和則】



北海道大学男声合唱団 第31回定期演奏会（1983年1月28日 札幌市民会館にて）

保育を語る会

第1回は終了しました。

第2回 日時：9月4日(土)9:00~
場所：栃木県幼児教育センター
(宇都宮市瓦谷町1070)

内容：講演

テーマ：幼児期からの規範意識を考える
~ 小学校の授業から

幼児期に必要な経験を探る~

第3回 日時：12月4日(土)9:00~

場所：宇都宮大学教育学部附属幼稚園

内容：公開保育・保育研究・講演

テーマ：生きる力の基礎としての幼児期の協同
する経験

講師：小田 豊先生

第4回 日時：2011年2月5日(土)9:00~

場所：宇都宮大学教育学部附属幼稚園

内容：公開保育・保育研究

テーマ：仲間の一員としての「私」の在り方

参加費：200円(資料代)

問い合わせ先：宇都宮大学教育学部附属幼稚園

TEL：028-622-9051

演奏会 MOMENTS MUSICAUX Vol.5

~ 宇都宮大学教育学部音楽教育講座の教員による演奏会 ~

日時：10月8日(金)19:00開演(18:30開場)

場所：宇都宮市文化会館小ホール

入場料：全自由席¥1,000

主催：宇都宮大学教育学部音楽教育講座

問い合わせ先：宇都宮大学教育学部総務係

TEL：028-649-5242

峰ヶ丘祭スポーツ大会〔学生主催〕

日程：10月16日(土)、17日(日)

会場：宇都宮大学峰地区構内

内容(予定)：ソフトボール、バレーなど

参加対象：大学祭参加団体

公開研究会

日時：10月21日(木)9:00~

場所：宇都宮大学教育学部附属幼稚園

内容：公開保育・保育研究・分科会

テーマ：仲間の一員としての「私」の在り方

分科会：幼稚園の生活と「規範」

小学校への接続、協同する経験

参加費：500円(その他研究紀要代1,500円)

問い合わせ先：宇都宮大学教育学部附属幼稚園

TEL：028-622-9051

ふれあい祭り 第6回学校祭

日時：10月30日(土)9:20~14:25

場所：宇都宮大学教育学部附属特別支援学校

内容：演技発表、中・高等部作業製品販売、PTA手作り

作品販売、模擬店、バザーなど

問い合わせ先：宇都宮大学教育学部附属特別支援学校

TEL：028-621-3871

第10回 午後のコンサート【入場無料】

~ 宇都宮大学教育学部音楽教育専攻の学生による ~

日時：8月1日(日)13:30開演

(2010年度オープンキャンパス午後の部)

場所：教育学部C棟(音楽棟)2階合奏室

主催：宇都宮大学教育学部作曲研究室・音楽科教育研究室

問い合わせ先：宇都宮大学教育学部総務係

TEL：028-649-5242

県民への授業公開【受講料無料】

国際学部では、開倫塾提供講座として国際学部専門科目「国際学特殊講義(国際政治と文明)」を県民の皆様へに開放したいと考えています。講義を担当して下さる神長善次国際学部客員教授は、栃木県出身の元外交官で、アジア、中近東の大使を歴任された方です。開倫塾のご厚意により、ぜひ県民の皆様へ、外交官から見た国際政治と日本の関係を聞いていただきたいと思い企画いたしました。

日時：第1日 8月11日(水)8:50~16:00

第2日 8月12日(木)8:50~16:00

第3日 9月22日(水)8:50~17:40

第4日 9月24日(金)8:50~17:40

場所：宇都宮大学国際学部E棟3階 1351教室

講義担当者：宇都宮大学国際学部 客員教授

神長善次氏〔元外交官〕

定員：30名(超過した場合は教室の関係でお断りすることになります)

応募方法：下記宛に受講者の住所、氏名、連絡先電話番号、簡単な受講理由等を明記した「メモ」と「返信用切手」

80円分を送付してください。

〒321-8505 宇都宮市峰町350

宇都宮大学国際学部 久野専門職員宛

応募期間：7月12日(月)~22日(木)

*参加の可否については、封書にて回答いたします。

*車でお越しになる場合は、正門の案内所にて遮断機のカードをもらってください。

第59回関東甲信越大学体育大会

日程：平成22年8月16日(月)~31日(火)

場所：信州大学、新潟大学、長岡技術科学大学

*前回大会の成績 優勝 バレーボール男子、剣道男子

(団体の部) 準優勝 バレーボール女子

3位 卓球男子、卓球女子

国際キャリア合宿セミナー2010

~ 国際舞台で活躍を目指す若者たちへ ~

国際的な仕事に求められる知識や能力を学び、これからのキャリアを考えるヒントや判断材料が得られ、全国の大学生や社会人など多様な参加者から、大きな刺激を受けられます。

< 国際キャリア開発基礎 >

日時：9月4日(土)~6日(月) 参加費：8,000円

定員：120名~180名(応募多数の場合は締切後に抽選)

会場・宿泊：とちぎ海浜自然の家

茨城県銚田市玉田336-2

< 国際実務英語 >

日時：9月18日(土)~20日(月) 参加費：7,000円

定員：60名~80名(応募多数の場合は締切後に抽選)

会場・宿泊：芳賀青年の家 芳賀郡益子町益子4470

問い合わせ先：宇都宮大学国際学部総務係(小竹・坂本)

TEL：028-649-5165

第62回峰ヶ丘祭〔学生主催〕

日程：11月20日（土）～22日（月）

会場：宇都宮大学峰地区構内

内容（予定）：模擬店・展示・成果発表（屋内）
芸人ライブなど



ふれあいコンサート

日時：11月20日（土）13：30 開演（13：15 開場）

場所：宇都宮大学教育学部附属特別支援学校体育館

内容：宇都宮大学教育学部音楽教育専攻の学生たちによるコンサート

問い合わせ先：宇都宮大学教育学部附属特別支援学校
TEL：028-621-3871

*** お知らせ *** 役職員の報酬・給与等の水準公表について
国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）に基づき、平成21年度の役職員の報酬・給与等の水準を公表しています。詳しくは本学ホームページをご覧ください。
URL:<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/jyuhoukoukai/index.html>

地域のチカラ
知の発信

オーブンキャンパス 2010
2010/8/1 (Sun)
9:00 OPEN 9:30 START

宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

QUESTION QUESTION QUESTION QUESTION QUESTION 宇 大 検 定 問 題 QUESTION QUESTION QUESTION QUESTION QUESTION

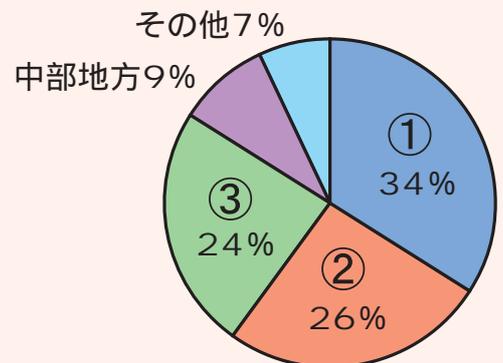
問1. 宇都宮大学が発足したのはいつでしょう？

- A . 昭和24年（1949年）5月31日
- B . 昭和39年（1964年）4月1日
- C . 平成6年（1994年）10月1日

問2. 新入生の出身地のグラフで正しい組み合わせはどれでしょう？

（対象：平成22年学部入学生）

- A . 栃木県 栃木県以外の関東 東北地方
- B . 栃木県 東北地方 栃木県以外の関東
- C . 栃木県以外の関東 栃木県 東北地方



問3. 学生がお茶を飲みながら、進路や就職活動について考えることができる「カフェ」の名前はどれでしょう？

- A . オープン・カフェ
- B . キャリア・カフェ
- C . サポート・カフェ



（解答は14ページ）

Jリーグの鬼武チェアマン本学で講演

本学とJ2栃木SC連携協定締結記念特別講演が4月21日 大会館で開かれ、Jリーグの鬼武健二チェアマンが「Jリーグ百年構想」と題して講演した。協定は、両者の人的資源や施設などを相互に利用し、人材育成や地域貢献活動を取り組むことを内容として、今年2月に締結された。講演には本学の学生や一般市民約200人が参加。鬼武チェアマンは「サッカーチームは地域に根ざした活動をして、県民に支えてもらうための努力が必要」などと語った。



源や施設などを相互に利用し、人材育成や地域貢献活動を取り組むことを内容として、今年2月に締結された。講演には本学の学生や一般市民約200人が参加。鬼武チェアマンは「サッカーチームは地域に根ざした活動をして、県民に支えてもらうための努力が必要」などと語った。

足利銀行の提供講座始まる

足利銀行の社員が金融市場の仕組みや経済情勢などを教える授業「一地方銀行の歴史に学ぶ金融論」が4月14日から本学で始まった。本学と同行が地域の発展や社会貢献、人材育成などを目的に締結した「産学連携に関する覚書」の取り組みの一環で、同行が大学に講座を提供するのは初めて。全学部の1～4年生を対象として前期中に15回開講し、バブル期の経営や不良債権問題、預金保険制度など同行の歴史を踏まえて解説する。



人材育成などを目的に締結した「産学連携に関する覚書」の取り組みの一環で、同行が大学に講座を提供するのは初めて。全学部の1～4年生を対象として前期中に15回開講し、バブル期の経営や不良債権問題、預金保険制度など同行の歴史を踏まえて解説する。

女子バレーボール部、関東1部リーグへ昇格

関東大学バレーボール女子春季2部リーグ戦で、本学女子チームが初優勝を飾り、今秋からの1部昇格を決めた。昨秋のリーグ戦(2部)は3位。2位以内に入れば1部に自動昇格できるため、それを目標にしてきた。他大学に比べ練習量は少ないが、まとまりのあるチーム力でカバーするのが宇大の特徴。強豪が揃う大学バレーボール最高峰のリーグでの活躍が期待される。



天体ドームが改修され、新観測システム稼働

教育学部棟の天体ドームの改修工事が終了し、地域住民も利用できる天体観測共用システムとして再稼働した。新システムは口径40センチの高精度反射望遠鏡をはじめ、特徴の異なる複数の望遠鏡を備え、多様な天体観測に対応できるのが特色。コンピュータ制御の自動追尾機能、高解像度の画像・動画収録装置などを備え、下部の観測室には簡易プラネタリウムなども備える。天体ドームは教育学部棟の耐震工事に伴い42年ぶりに改修した。



楽しみながら英語を学ぶ。英語学習専用の映画館開設

本学は英語教育改革を行い、09年度から「イープー(EPUU: English Program of Utsunomiya University)」と呼ばれる新しい共通教育英語プログラムを開始した。EPUUの特徴のひとつが「映画英語」。生の映画を教材に、英語の口語表現や欧米文化を学習する。共通教育センターに大学としては珍しい英語学習専用の映画館(37席)が設置された。「可能な限り英語と接触することで英語力を向上させる『浴びる英語』がEPUUの特色。映画館では楽しみながら英語を学んでほしい」と共通教育センター副センター長の江川美知子教授。

ANSWER ANSWER ANSWER ANSWER ANSWER 宇大検定 解答 ANSWER ANSWER ANSWER ANSWER ANSWER

問1 A. 昭和24年(1949年)5月31日

昭和24年5月31日に国立学校設置法が公布され、宇都宮大学は、学芸学部(現教育学部)と農学部の2学部からなる国立大学として発足しました。

B. 昭和39年4月1日は、工学部が設置された日です。C. 平成6年10月1日は、国際学部が設置された日です。ちなみに、教育学部は昭和41年4月1日に学芸学部から改称し、農学部は昭和24年5月31日の宇都宮大学発足当初から設置されています。

問2 A. 栃木県 栃木県以外の関東 東北地方

やはり栃木県出身者が34%と一番多く、茨城県出身者が10%、埼玉県出身者が8%と続きます。例年、東北地方出身者が多いことも宇都宮大学の特徴です。

問3 B. キャリア・カフェ

キャリア・カフェは峰キャンパス共通教育D棟2階にあります。進路・就職関連図書や雑誌などが豊富に取り揃えられており、カフェコーナーも設けられています。ゆったりとした快適な空間で、お茶を飲みながら友達と進路や就職の情報交換ができます。進路について考えるヒントがたくさんありますので、就職はまだ先...と考えている1・2年生も是非ご利用ください。

宇大生は 今!

学生生活で
enjoy! していること

イベント

- 大学祭でかーしー売りを頑張った!
(教育・2年・私立宇都宮短期大学附属高等学校卒 )
- 24時間耐久ボウリング大会!!
(工・2年・福島県立福島東高等学校卒 )
- 大学祭。部活で大判焼きを出店しています。
(農・3年・東京都立小山台高等学校卒 )
- 学科のスポーツ大会!! 打倒、教員チーム (意外と強い)。
(農・4年・兵庫県立長田高等学校卒 )



- 個性豊かな先生たちの楽しい授業!
(農・4年・兵庫県立長田高等学校卒 )
- 教授たちとの会話。
(工・4年・秋田県立横手高等学校卒 )
- 教授と仲良くなってさまざまなことを学び、自分の視野が広がった。
(国際・4年・私立佐野日本大学高等学校卒 )
- 研究室で、卒業テーマの研究をしていること。
(工・4年・福島県立福島西高等学校卒 )

授業・ゼミ等

- 定期演奏会に向けての練習。合宿や飲み会、大学生のうちにはできないことをたくさんして充実しています。
(工・4年・岩手県立盛岡第三高等学校卒 )
- 他学部の友達がたくさんできて、いろいろな話ができて、いい刺激になる。
(教育・3年・茨城県立水戸第三高等学校卒 )
- 普段の活動以外にもメンバーでスポーツや旅行をして楽しんでいます。
(国際・3年・沖縄県立首里高等学校卒 )
- サッカー部! 練習以外でも楽しい仲間達です!!
(国際・3年・私立東海大学付属第三高等学校卒 )
- ジャズサークルで演奏しています。
(教育・2年・栃木県立大田原高等学校卒 )
- 野球部の友達との飲み会! カラオケ・ボーリング・おしゃべり etc.
(工・4年・千葉市立千葉高等学校卒 )
- サークル活動でのバーベキュー、食事などみんなで過ごす時間。
(工・4年・私立春日部共栄高等学校卒 )



サークル活動等



- 友達とおしゃべりや散歩、ジョギング。
(国際・3年・秋田県立大館国際情報学院高等学校卒 )
- お昼ごはんをみんなでしゃべりながら食べること。
(教育・1年・私立宇都宮短期大学附属高等学校卒 )
- 空きつマ (授業の合間) に生協やベルモールで友達とおしゃべり☆
(工・3年・群馬県立前橋高等学校卒 )

休み時間等

その他

- たくさんの留学生と遊んだり、飲んだりしてenjoyしています!
(農・3年・宮城県仙台第一高等学校卒 )
- 大学の休みは長いので、バイトで貯めたお金で海外に行っています!
(国際3年・栃木県立栃木女子高等学校卒 )
- 日当たりのよい所でぼーっとしていること。
(農・1年・香川県立津田高等学校卒 )
- フランス式庭園で夏の授業が終わってからアイスを食べた。おいしかった。
(農・4年・栃木県立今市高等学校卒 )



Circle pin-up

-サークル紹介- フライングディスク部

フライングディスク日本代表2人選出 8月開催世界大会出場へ

フライングディスクにはいろいろな競技があるのですが、私たちフライングディスク部は「アルティメット」というものをやっています。アルティメットとはサッカーやバスケット、アメフトを合わせたようなルールで、フリスビーを使って行うスポーツです。

部員は全員大学から始めた初心者ですが、高い目標を持ち、日々楽しく練習に励んでいます。年に数回開催される大会で、練習の成果を発揮しています。

毎年夏に行われる1年間で1番大きな大会である全日本学生アルティメット選手権大会では、去年、男女ともに東日本の予選を突破し、本選への出場を果たしました。さらに今年の4月に行われたフレッシュマンズカップでは、女子が決勝へと

進み2位という好成績を残しました。この勢いで、今年の夏も去年以上の成績を残せるように、男女ともに技術の向上を目指しています。

また、部員の中には、日本代表として世界大会に出場する人たちがいます。一昨年は、現4年生から3人が世界大会に出場し、世界1位という快挙を成し遂げました。今年も2年生から2人が出場します。

世界大会は8月に行われるので、今は宇大の練習と代表の練習とを両立させながら頑張っています。部員の中に日本代表がいることは、私たちのチームとしても良い影響になっています。

運動好きの方、新しいスポーツを始めたい方、最高の仲間を作りたい方、日本代表を目指してみたい方にはこんなフライングディスク部がピッタリです。興味を持った方がいましたら、ぜひ遊びに来てください。



UU now 第22号 編集後記

編集後記

「OBINTERVIEW」に登場していただいたトヨタ自動車の山崎さんが開発に携わっている「Windjet」。私も実際に乗ってみました。思ったよりも簡単に操作ができ、動く歩道に乗っているような感覚でした。これからは、世界が驚くようなロボットを開発してくれたらうれしいですね。

「私の学生時代」のコーナーでお話をうかがった岩淵教授は、とても気さくな先生でした。私の中の質問に多様なお答えをしてください、とても楽しい時間を過ごすことができました。みなさん先生の学生時代に触れることで、先生をもっと身近に感じてもらえたらと思います。

「宇大検定」は、宇大生なら全問正解間違いなし(?)です。とは言いつつも、宇大職員歴5年目の私は、わずか1問しか答えがわからず……。もつと宇大のことを勉強して問題を作っていきますので、みなさんも是非チャレンジしてください。

「UU News」で女子バレーボール部を紹介しましたが、1部リーグで宇大旋風を巻き起こし、将来は日本代表に選出されるような選手が育つことを願っています。今後、このページでは「宇大の今」を知ることができるよう、ニュースをお伝えしていきます。

今回初めて「UU now」の編集に携わりました。この広報誌がさまざまな人たちの協力があって作られていることがよくわかり、協力してくださった方々の優しさや温かさを感じることができました。これからもよりよい「UU now」にするために努力していきますので、どうぞよろしくお願いたします。

(編集委員 長嶋奈津美)

企画・編集
宇都宮大学
UU now 第22号編集委員

編集委員

- 金井田和親 国際学部1年
- 仲松ミゲル 国際学部1年
- 中村真惟 国際学部3年
- 畑山裕可 工学部4年
- 岩上知可 農学部2年
- 野々村拓真 農学部2年
- 生沼晶子 農学部3年
- 吉田廉蔵 工学研究科1年
- 池田正文 農学研究科1年
- 米山正文 国際学部教員
- 川原誠司 教育学部教員
- 上原伸夫 教育学部教員
- 大澤和敏 農学部教員
- 菊池浩行 学生支援課職員
- 茂木通博 学術情報課職員
- 青木恭徳 企画広報課職員
- 長嶋奈津美 企画広報課職員
- 高橋和廣 企画広報課職員

編集協力
栃木文化社
ビオス編集室

発行責任者
渡邊直樹
理事
企画・広報担当

企画広報課では、皆様の声をお待ちしております。
ご意見・ご要望などをお寄せ下さい。

【宛先】宇都宮大学 企画広報課
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
TEL 028-649-8649 FAX 028-649-5026
URL <http://www.utsunomiya-u.ac.jp>
E-mail : plan@miya.jm.utsunomiya-n.ac.jp



宇都宮大学
携帯サイトへGO!